



## 起業は究極の能力活性化法～千日回峰行とベンチャー起業～

森 勇介<sup>†</sup>

### What is the Best Potential Activation Method? Correlation between Enryaku-ji Temple's Thousand-Day Circumambulation Practice Venture Entrepreneurship

Yusuke MORI<sup>†</sup>

皆さん、「社長は元気だ」という言葉を聞かれたことがあるのではないのでしょうか。実際、松下幸之助さん、盛田昭夫さん、本田宗一郎さんといった有名な起業家の大先輩達は、とっても元気だったそうです。これは元々元気な人が社長になっているという理解もできますが、最近、私は社長をするから元気になったのかではないかと思うようになりました。そう思うようになった経緯をご説明いたします。

比叡山延暦寺では、千日回峰行という荒行が有名ですが、これは10年ほどかけて、山の中をひたすら歩く修行法だそうです。その途中で、9日間、食事や水を断ち、不眠不休で不動真言を10万回唱え続けるという、普通の人間では到底出来ないことを実行されます。また、私が色々ご指導頂いています高野山真言密教の大阿闍梨は水だけで55日断食をされています。千日回峰行や断食といった荒行をする意義は一体どこにあるかということに興味を抱き、直接お話を伺ったり、書き物を読んでいる中で、私なりの解釈ができてきました。それは、生死の境目に身を置くことで、個々の細胞が個体維持のために潜在能力を発揮させるようにしているのではないかと、という仮説です。例えば、55日の断食をすると、感性が研ぎ澄まされ、線香の燃える音や灰の落ちる音が聞こえるそうです。また、山の中を歩いていると、動物としての本能が研ぎ澄まされ、普通の人間が歩けない獣道を素早く移動できるとともに、「一木一草の姿が日々違う(1日分だけ草が伸びている)こと」にさえ気づくそうです。

私は2005年にフェムト秒レーザーでタンパク質を結晶化する技術を基に大学発ベンチャー(株)創晶を起業し、代表取締役に就任いたしました。最初は極めて順調だったのですが、リーマンショックの時に大赤字を出しました。その時の、「このまま赤字だったら倒産する」という恐怖・不安はどう考えても理屈では消せません。来年度が黒字になる保障は全くありませんが、結局、覚悟を決めて、目の前の事業を前向きに一生懸命するしか方法はないのです。お蔭様で、現在では、その赤字も解消しています。その後、以前だったら躊躇していたと思われる難題に対しても、最後は何かかなるから大丈夫、と気楽に挑戦している自分に気がきました。この経験から、危機のお陰で潜在能力が活性化されたのではないかと思うようになりました。結局、人間は、危機とその解決の繰り返しで成長していくように思います。パナソニックやソニー、ホンダといった大企業も創業間もない頃は、何度か倒産の危機があったようですが、その度に、創業者が感性を研ぎ澄ませて、何とか危機を乗り越えたと思います。一方、一旦大企業になってしまい、責任の所在が不明確になり、自分が多少サボっても倒産しないだろうと思ってしまうと危機感を感じなくなり、所謂大企業病に陥ってしまうように思います。この解決法として、稲盛和夫さんが提唱されておられますアメンバー経営が個々の単位で危機感を感じる仕組みとして効果的だと思います。

このような経験から、私は、本当の危機感を味わえる起業は、荒行にも匹敵する究極の能力活性化法だと思うに至りました。また、人生で初めての倒産という危機に遭遇したときに、「失敗したら怒られる」、「自分は能力が無いのでどうせ失敗する」、というようなマイナスイメージのトラウマがあると、パニックになって右往左往して、本当に必要なことが出来ず、諦めてしまって悪い方向に行ったのではないかと思います。起業前に、カウンセリングを受けて、危機だけれど最大限努力すれば何とかやり切れるだろうと心から前向きになれた、ということもとても重要で、どんな状況でも諦めずにあらゆる工夫を続けると普段では思いつかなかった解決策が閃くのだと実感いたします。

誰もが出来ていないことに挑戦する研究開発では、失敗が当たり前です。この時に現場の担当者がどうせ出来ないと思って実験していますと絶対に成功しません。ノーベル物理学賞を受賞された天野浩先生は、1000回以上実験に失敗されても、全く諦めず、絶対に出来ると心から思っておられたそうです。この前向きさが成功の秘訣なのですが、頭で

<sup>†</sup> 大阪大学大学院 工学研究科電気電子情報工学専攻 (〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-1)

<sup>†</sup> Graduate School of Engineering, Osaka University, 2-1 Yamadaoka, Suita, Osaka 565-0871

は理解できても、失敗が続いている状況で心から前向きになるのは容易ではありません。そのような時、私は前述のトラウマを解消するメンタルトレーニングが有効と実感しています。メンタルトレーニングに関しては、以下の参考文献をご覧ください。

#### 参考文献

- 1) 森 勇介：心理学的アプローチによるプロジェクト活性化 応用物理 **82** (2013) 880.